

年頭のご挨拶



錦江町長
野元良一

新年明けましておめでとうございます。

皆様ご健で、良き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

錦江町が誕生し、3年9ヶ月余りが経過しました。その間、行政が順調に推移していることは、町民の皆様方の暖かいご理解とご協力の賜物だと厚く感謝申し上げます。

我が国の社会経済情勢は、米
国から発した金融危機、株価急
落や原油高騰等の影響を受け、
景気後退局面に入っていると
われております。我が国のみ
ならず米欧を始め、世界中に経済
危機の嵐が押し寄せて来てお
ります。このたいへん厳しい時期を
乗り切っていくためには、地方自
治体では更なる行政改革の推進
が必要だと思えます。このこと
については、目標年度の平成21年
度を目指して取り組んでいると
ころです。職員の積極的な取
組みと町民の皆様方の暖かいご

理解とご協力によりまして一歩
一步目標に近づいていることに対
しまして厚く感謝申し上げます。

さて、昨年は台風の上陸はあ
りませんでした。我が町の基
幹産業である農林水産業は前年
に引き続き外圧による価格の低
迷、さらに原油高騰によるコス
ト高、葉たばこについては3年連
続の不作となり、大変厳しい年
となりました。また、農業就労
者の高齢化と後継者不足で先が
見えず、将来に深刻な悩みを抱
えております。

一方、新たに錦江町において農
業経営を目指し、将来的には加
工部門まで取り組みたいと町外
から農業生産法人が進出されて
おります。このような先駆的な
農業経営者が本町へ進出してく
ださることはたいへん心強く有
り難い限りであります。今後の
地域農業振興には、このような
方々と情報交換をしながら連携
を図り、切磋琢磨していくこと
が必要なことだと思えます。

これからの農林水産業は、大
きく分けると二つの課題があり
ます。

一つ目は、「安心・安全・美味
しい」の消費者ニーズにいかに応
えていくか、二つ目は、生産コス
トの低減をどう図っていくか、こ
れがポイントだと思えます。

農業においては、この二つの課
題に対応するため、議会のご理
解も得て、現在、土づくり支援

センター建設に着手していると
ころです。完成後は、土づくり
支援センターの堆肥を使用する
ことにより健康な土づくりと元
肥としての効果を果たし、そし
て追肥に液肥を使うことで化学
肥料ゼロに近いシステムを構築
したいと考えているところで
そのことよって、前述の安心・
安全で美味しい農産物生産とコ
スト低減を図っていく、更には地
域環境に配慮したCO₂の削減と水
質汚染防止に配慮した農業の町
を目指して行きたいと考えてい
ます。

林業につきましては、昨年と
同様、外材の価格が上昇してい
ること、国内の業者が国内産
へ大きくシフトしてきていること
などから、時間を要するかもしれ
ませんが、今後好転していく
ものと期待をいたしております。
また、山林の持つ、公益的、多
面的機能を高めるため、除間伐
の推進を図るとともに、特用林
産物の振興にも努めてまいりま
す。

漁業につきましては、これまで
どおりつくり育てる漁業を主体
に引き続き漁礁設置事業を導入
し、また国県の事業による大型

漁礁設置も計画されております
ので、その効果に期待していると
ころです。

商工業につきましては、大型
店の進出等により地元商店は沈
滞化の状態が続いておりますが、
商工会と連携を密にして、活性
化対策に乗り出されることを期
待します。

福祉面におきましては、少子
高齢化が進行する中で、高齢
化対策として引き続き保健セン
ター利用による検診、健康増進
介護保険事業デイサービス、宅
配給食等の充実、包括支援セン
ターの活用、青山荘、みなみかぜ、
南松園等の民間活力のさらなる
充実を図ってまいりたいと思
います。

これらの事業が円滑に行われ、
高齢者の皆さんも健康増進に努
めていただきたい。現在、運行し
ているコミュニティバス（福祉バ
ス）を継続し、昨年4月から無
料にしている料金についても引
き続き無料とします。

少子化対策としましては、引
き続き子育て支援、学童保育を
推進してまいります。錦江町独
自の取り組みとして、昨年4月
から保育園・幼稚園の保護者負
担の軽減を図るための対策とし
て、第一子・第二子を1/2軽
減、第三子の無料化を図りまし